



松棟「月見草の間」から望む淡島と富士山



第四十四回 太宰治ゆかりの宿

安田屋旅館松棟・月棟

駿河湾奥部の内浦三津に明治22年に創業した安田屋旅館。大正7年、昭和6年にそれぞれ建築された松棟と月棟は、平成12年に国の登録有形文化財となった純和風の建築物です。

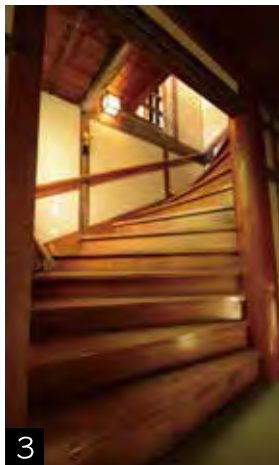
この松棟2階の客室「月見草の間」は、作家・太宰治が、昭和22年2月から約半月程滞在し、名作「斜陽」の第1章・2章を執筆した部屋として知られています。現在も宿泊ができるこの客室は当時の趣をそのまま残し、手前に三津浜奥に淡島と富士山を望むことができます。太宰治ゆかりの宿として、多くの太宰ファンが訪れています。



3つ連なる瓦屋根が特徴の安田屋旅館。手前2つの客室が松棟、奥が月棟。

作家・太宰治と沼津
太宰治と沼津の関係は、安田屋旅館で「斜陽」を執筆する前より古く、昭和7年に始まります。東京帝国大学在学中に心身を癒すために、最初の妻・初代と共に志下に1カ月滞在し、処女作と言われる「思ひ出」を執筆したのです。沼津で執筆したこの作品によって、太宰治は文壇の第一歩を踏み出したと言われています。

参考文献「沼津文学紀行」鈴木邦彦著



- 1 松棟2階「月見草の間」
- 2 「斜陽」を記念し、その一節が記された文学碑
- 3 松棟2階へと続く大正時代から残るらせん階段

▶安田屋旅館 ④内浦三津 19 ☎055-943-2121

